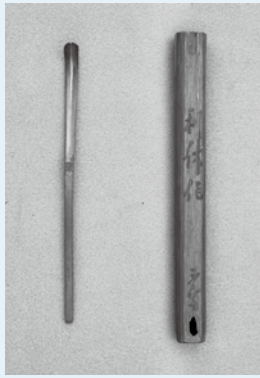


都城島津伝承館特別展

都城喫茶ことはじめ

◎問い合わせ 都城島津邸 ☎23-2116



ちやしやく でん せんのりきゆう
茶杓 伝 千利休
(立花家史料館所蔵)



しろさつ ま ちゃわん
白薩摩茶碗
銘おもかげ
(鹿児島県歴史・美術センター黎明館所蔵)



ちゅうこうめいぶつ
中興名物
かたつきちやいれ めいただのり
肩衝茶入 銘忠度
(野村美術館所蔵)

今年は、わび茶の大成者、千利休の生誕500年に当たります。島津本家では、義久や義弘、家久をはじめ、上井覚兼や伊集院忠棟などの上級家臣らが度々茶会を催しました。とりわけ武勇で知られる義弘は、利休に茶の湯の作法を習うなど深い関わりを持ちました。

都城島津家でも、多くの茶の湯関係の史料が伝わっています。「庄内地理志」によると、近世以降、武士の素養の一つとして茶の湯が学ばれ、家臣を京都や江戸、堺へ派遣して中央の文化を持ち帰り、地域の文化醸成に寄与していたことが分かります。本特別展では、茶の湯の政治的役割に触れつつ、歴史の流れに伴う美意識の変化を概観し、主に都城島津家の事例を通して、武士社会において茶の湯が果たした文化的役割について紹介します。

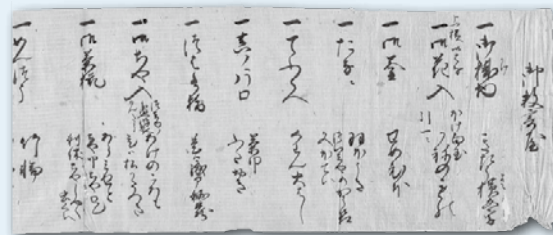
※本特別展は、都城島津家伝来史料 宮崎県文化財一括指定記念展を兼ねています

◎主な展示史料

【国玉】島津家文書 徳川將軍江戸藩邸御成一件…藩邸調度品 拝領進上物 能組目録(東京大学史料編纂所所蔵)

徳川幕府將軍家による島津家藩邸への

※御成について記録された史料です。



この御成には、後の都城島津家第15代北郷久直と、御家中衆として後の同家第14代忠亮が出席。御成当時の様子がかがいがい知れる貴重な史料です。

※貴人が外出することや訪ねてくることをいう尊敬語
【県指定文化財】赤井新太郎外1名書状(都城島津邸所蔵)

本状は都城島津家伝来史料の一つで、数寄屋建設にかかる費用について記されています。

江戸時代後期の都城島津家が文化事業にかかる財政事情の一端が分かれます。

特別展概要

●会期 10月15日(土)～11月27日(日)

●観覧料 一般400円(300円)、高校・大学生300円(200円)、中学生以下無料

※(一)内は20人以上の団体料金。本宅は小学生以上110円。11月3日(文化の日)、11月23日(島津発祥まつり)は特別展観覧無料

※受付で、都市市立美術館、都城歴史資料館、高城郷土資料館、山之口麓文弥節人形浄瑠璃資料館の入場券の半券提示で、観覧料を団体料金適用。20人未満での利用が対象です

特別展関連講演会(無料)

「中世の西国における茶の普及」をテーマに、愛知学院大学の福島金治教授が講演します。

●日時 11月5日(土) 13時30分

●場所 総合文化ホール

●定員 50人 ※申し込み順

●申込 10月4日(火)から10月30日

(日)までに都城島津邸